

休校の小中生 動画で支援

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い小中学校の休校措置が続く中、三島市の教員が理科の実験などを撮影した動画を発信し、自宅にいる児童生徒の学習をサポートしている。校長や担任の先生がメッセージを定期的に送り、子どもとのつながりを継続しようとする学校も。「教育を止めない」を合言葉に、各校は知恵を絞っている。

三島の教員「教育を止めない」



休校中の生徒に向けて理科の実験の動画を撮影する教員

114月中旬、三島市立南中

理科の実験など 工夫凝らし配信

生卵とゆで卵、斜面を転がしたらどっちが速い？ 市立南中では「理科部からの挑戦」として理科教諭が生徒

に出題し、答えを翌日の動画で紹介する。実験結果を見た上で生徒が理由を考える動画もホームページにアップし、レポートにまとめ、レポートに提出してもらう。撮影に取り組む渡辺裕介教諭(33)、齋藤菜美教諭(22)は「プリントでは伝わらない動きや驚きが動画にはある。思考力を養ってほしい」と期待する。このほか、同校では受験生となる3年生向けに国語や数学、英語などのリモート学習をオンラインで行い、課題を出して質問を個別に受け付ける。各教科部会でも教諭がアイデアを出し合うなど「今何ができるか、教員の

創意欲が高まっている」と野口厚校長(58)。市内では5月31日まで休校延長も決まり、「生徒が楽しめるよう次なる手を考えたい」と意気込む。市立徳倉小では2学年ごとに担任の教諭が公立小中ICT活用

県教委義務教育課によると、県内公立小中学校の家庭学習でのICT活用について、文部科学省が4月に実施した調査で、県内35市町のうち、20市町が臨時休校中に「家庭のパソコンなどの利用や、学校の端末を持ち帰りなどの対応を取っている」と回答した。ただ、活用方法は「学校設置者の市町ごとに異なり、把握できていない」とい。

県内では、川根本町立本川根中が27日から、生徒に1人1台貸与しているタブレット端末を使い、双方向型のオンライン授業を開始した。町内の他校でも実施に向けた動きが

動画を撮影し、「元気にしていきますか」「今できることにチャレンジしてください」など児童へのメッセージを毎日送っている。金曜日には事前に作ったピンゴカードの数字を発表するなどレクリエー

向型の遠隔学習を行うためのウェブ会議アプリ導入費用を計上。映像配信用の機器整備を進んでいる。

一方、県教委は本年度一般会計補正予算に、県立高90校で双方

文科省 休校解除の選

新型コロナウイルスの影響で長期化している休校の解除を巡り、文科省は政府の専門家の見解を踏まえ、学校再開時の考え方を近く公表し、学校の設置者である全国の教育委員会などに参考にしてもらう。

登校する学年を限定すれば教室に余裕がで、一つのクラスを複数の教室に分け、密集を避けながら授業を行

公立小中 ICT活用 20市町が対応

公立小中 ICT活用

20市町が対応

文科省 休校解除の選

小1、小6、中3登校

文科省 休校解除の選

示 条 事